

TEMPUS テンプス



2002年(平成14年) 13号



H.13



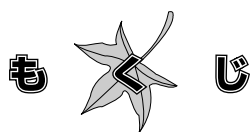
H.11



H.10



H.8



変わりゆく貝塚

- まちかど定点観測撮影会の成果から -

チャンチャンヒキ

ちょっと散歩に出かけませんか!?

文化財トピック

郷土資料展示室企画展を開催

『平成13年度貝塚市指定文化財』

『道具に見るむかしの生活

- 食べる、住む、遊ぶための道具 - 』

沢城跡の発掘調査

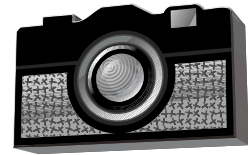
古文書講座開催

市内の古文書調査から

変わりゆく貝塚 -まちかど定点観測撮影会の成果から-

街は道路整備や建物の建替えなどによって日々変化しています。そうした変わりゆく郷土貝塚の姿を写真記録にとどめることを目的に、貝塚市教育委員会では、平成8年度より「まちかど定点観測撮影会 - 市民の手による街の記録 - 」を毎年8月の日曜日に開催し、市内130箇所に設定した撮影ポイントで、公募した市民のみなさんの手によって撮影を行なっています。

今回は、過去7年間に撮影した写真の中から、大きく変化のあったポイントを中心にその状況を紹介します。



No,16(新井)ユニチカ引き込み線路跡からユニチカ工場跡地を望む。
(工場がさら地になりました。)



市内130箇所
撮影会に興味のある方、参加希望



No,54(脇浜)貝塚中央線・府道堺・阪南線交差点から山手方面を望む。(南海本線の高架が完成し、貝塚中央線が整備されました。)



H.9



H.11



H.13

No,98 (三ツ松)貝塚中央線・外環状線交差点から三ヶ山方面を望む。(外環状線の陸橋が架けられました。)



H.9

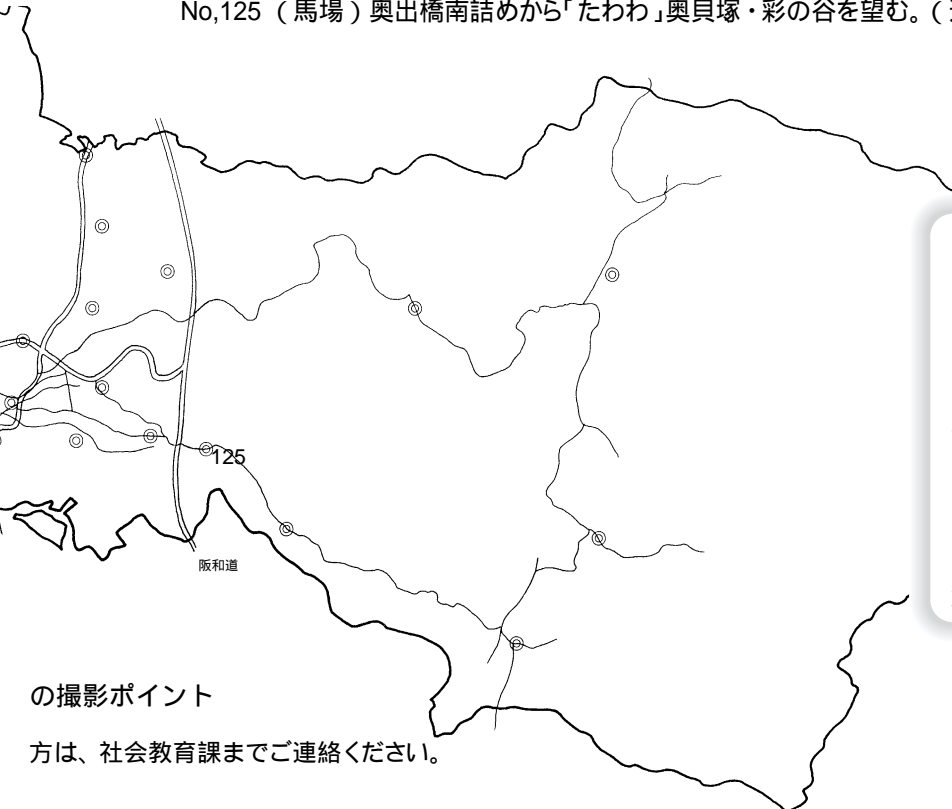


H.11

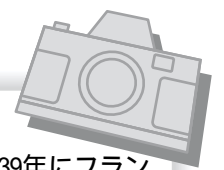


H.14

No,125 (馬場)奥出橋南詰めから「たわわ」奥貝塚・彩の谷を望む。(道路整備により道路が拡幅されました。)



の撮影ポイント
方は、社会教育課までご連絡ください。



～カメラの誕生～
世界最初のカメらは、1839年にフランスのルイ・ジャック・マンデ・ダゲール(1787 - 1851)が、ダゲレオタイプ(銀版写真法)という写真法を発明したのが最初とされています。このカメラが、同年8月美術科学アカデミーで発表されたことにちなんで、まちかど定点観測撮影会を開催しています。

H . は平成の略



H.9



H.10



H.11

No,57 (脇浜)近木川河口丘上から近木川上流方面を望む。(近木川に府道臨海線の橋が架けられました。)

● チャンチャンヒキ ●

- 三ツ松明土行念仏(みつまつみょうどいきねんぶつ) -

三ツ松明土行念仏は、通称「チャンチャンヒキ」と呼ばれ、平成10年2月には貝塚市無形民俗文化財として指定し、平成13年2月には大阪府によって記録を十分に残す必要がある無形民俗文化財として選ばれました。現在、三ツ松明土行念仏保存会によって保存継承されています。



辻堂

「三ツ松明土行念仏」(みつまつみょうどいきねんぶつ)は市内三ツ松地区に伝承されている盆の行事で、通称「チャンチャンヒキ」と呼ばれて親しまれています。昭和30年代に途絶えていましたが、昭和62年に復活し、現在経験者が中心となり保存会を組織して保存継承されています。

チャンチャンヒキはもともと、毎年8月7日から14日までの7日間(現在は14日のみ)行なわれていました。数え年18才の年行司(ねんぎし)と呼ばれる男子全員が参加し、鉦(かね)・太鼓を鳴らしながら辻堂(つじどう)・墓地・堂場(どうのば)に立ち寄り、太鼓・鉦の伴奏で念仏和讃(ねんぶつわさん)等を唱えます。

この由来には2説あります。釈迦(しゃか)の仏弟子目蓮尊者(ぶつでしもくれんそんじゃ)の母が餓鬼道(がきどう)から救われた喜びを表した「母見た踊り」が代々伝承された説、地元出身の紀州高野山興山寺2世世誉上人(1549~1612)が天正年間(1570年代)このチャンチャンヒキを作り伝えたという説です。

道具は、締め太鼓、鉦(かね)各一つです。衣装は普段着や紋付羽織、袴など特に定められていませんでしたが、現在上着は法被(はっぴ)、下は徒士袴としています。履物は足袋に雪駄履きです。

伝承されている曲は「道歌」・「寄り太鼓」・「念仏」(『ナムアミダブ』『オーウンナエ』)和讃(『釈迦の入り日』)・「母見た踊り」です。

この念仏の特徴は「母見た踊り」です。踊りと言っても手踊りがあるわけではなく、念仏の最後を締めくくる小節として、徐々に唄う速度が早まるに連れて太鼓と鉦も早くなります。特に太鼓を打つものが左右に跳ねたりしながら、躍動的に太鼓を打ち、ピッチを上げることが特徴です。



墓地(水間共同墓地)



墓地から移動中

ちょっと散歩に出かけませんか!?

- 身近な歴史を再発見 -

文化の秋、芸術の秋、行楽の秋、各所でさまざまなイベントが開催されますが、家の近所にある史跡などは意外と知らないことも多いと思います。そこで気候の良い秋、ちょっと散歩に出かけて見ませんか!?きっと新しい発見があるはずですよ。

そんなとき、役に立つのが貝塚歴史散歩と貝塚歴史散歩マップです。市内を5つのエリアに分けてお勤めの史跡や天然記念物を歴史散歩のコース紹介しています。もちろん、自分の興味ある場所だけを選んで、自分だけのコースで巡るのも楽しいですよ!

社会教育課または郷土資料展示室で販売しています。

貝塚歴史散歩 500円

貝塚歴史散歩マップ 300円



かいつか歴史文化セミナー

貝塚歴史散歩

歴史散歩マップのコースにしたがって年に2回程度実施してきました。これまで歴史散歩マップで設定したコースのうち7つのコースを歩きました。今年度は平成15年3月ごろに、寺内町のコースを予定しています。



孝恩寺仏像の見学

案内板・標柱

これは市内に残る、寺院、神社など文化財の解説板で、現在56カ所に設置しています。歴史散策で文化財を巡る人々が実際にその場で文化財に親しんでもらいながら理解していただけるようになっています。今後も対象を広げながら様々な場所に設置していく予定です。所在の一覧は市のホームページでもご覧になれます。



孝恩寺五輪塔案内板



水間寺の案内板

文化財トピック

最近の文化財ニュースをお届けします!!

郷土資料展示室企画展を開催

『平成13年度貝塚市指定文化財』

平成14年5月15日(水)から6月16日(日)にかけて企画展「平成13年度貝塚市指定文化財」を行いました。

前号でも紹介したとおり、市教育委員会は平成14年1月31日付けで、平安、鎌倉時代の仏像彫刻3点を市の文化財に指定しました。本展では、指定品のうち常福寺木造菩薩立像(じょうふくじもくぞうぼさつりゅうぞう)と常福寺木造僧形坐像(じょうふくじもくぞうそうぎょうざぞう)を展示し、孝恩寺木造阿弥陀如来立像(こうおんじもくぞうあみだによらいりゅうぞう)については写真パネルで紹介しました。また、常福寺木造僧形坐像の背に墨書きされた「釈迦堂(しゃかどう)」というお堂に関する資料として正平七年(1352)銘入りの鉦(かね) 室町時代制作の孔雀文馨(くじゃくもんけい)(以上、蕎原宮座蔵)等を展示しました。



展示風景



展示風景

『道具に見るむかしの生活 - 食べる、住む、遊ぶための道具 - 』

平成14年7月21日(日)から9月1日(日)にかけて企画展2「道具に見るむかしの生活 - 食べる、住む、遊ぶための道具 - 」を行いました。

市教育委員会では、市民の方々から寄贈をうけたり、市内の遺跡から発掘された、さまざまな種類の生活道具類を保存しています。これらひと昔前までつかわれていた道具類をひろく公開する場として、毎年夏休み期間中に民具の展示を行なっています。今年度は、衣食住のうち、「食」生活、「住」生活に関する道具143点を展示しました。

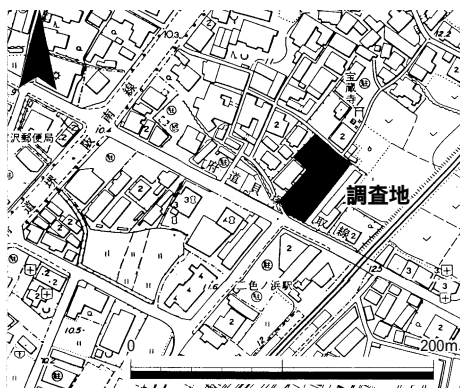


展示風景

沢城跡の発掘調査

本年3月に貝塚市浦田他地内で民間開発に伴う272㎡の発掘調査を実施しました。沢城跡は市北西部の沢、浦田地区に所在する中世・戦国時代の城跡・集落跡です。調査場所は南海電鉄二色の浜駅に近く、西側には大阪 - 和歌山を結ぶ紀州街道、府道堺阪南線があります。

検出遺構は溝6、土坑8、柱穴2、鋤溝9、杭跡6を検出しました。出土遺物から14世紀を中心として大規模な開発によって地形が改変されたことが明らかになりました。遺物は、中世～近世の瓦が多数（平安時代の瓦を含む）出土しています。中世の瓦器、土師器、青磁、近世の陶磁器が出土したほか、銅銭3枚（治平元寶、洪武通寶、無文？）焼塩壺、焼塩壺蓋なども出土しています。また、近世の瓦の中から「寛文十」（1670年～1673年）銘の線刻文字瓦が出土しました、近世の文字瓦が出土した例は市内初で貴重な成果となりました。



遺構検出の状況



文字瓦出土状況

古文書講座 開催

これまで春・秋の年に2度、連続4回の古文書講座を開催してきました。今年度からは、年3回に増やし、初心者の方にも多く参加いただけるよう、新たに初心者講習を行なっています。

<古文書講座10>では、まず5月11日に初心者講習を行ない、くずし字辞典のひき方や基本的な語句・部首のくずし方、漢文的表現、その他古文書解読に必要なことがらを説明しました。5月18日からは、「改革の時代 岸和田藩財政改革と村々」と題して、文政期（1820年代）の藩政改革について見ていきました。藩を財政面で支えた佐野の食野（めしの）家が大名貸しの行きづまり、廻船経営の不振などの原因により衰退していくなか、財政再建のため改革にとりくむ岸和田藩の動向と村々の様子を説明しました。



講座の様子

<古文書講座11>では、前回にひきつづき「改革の時代2 岸和田藩財政改革と村々」と題して、改革の懸り庄屋の「日記」を読み解くなかで、改革の行なわれていく様子を説明しました。

また、来年1月から開催を予定している<古文書講座12>では、「江戸時代における相続 庄屋の家に見られる継承のかたち」と題して、当時の家の相続にまつわる様々なできごとを見ていきます。

地域の歴史を知る身近な存在として古文書とふれあっていただけるよう、今後とも内容の充実をはかりますので、どうぞふるってご参加ください。

市内の古文書調査から

市教育委員会では、市内で発見されたもの、古くから伝わる古文書を解読し、歴史を紐解く作業をしています。さて、調査した古文書はどんなものだったのでしょうか？

📖 名越町会共有文書 📖

名越には歴代の町会長さんが代々ひきつぎ、管理してきた書類のなかに、江戸時代にさかのぼる歴史資料があります。最も古いものには、徳川8代将軍吉宗の頃にあたる享保期（1716 - 36）に、名越と清見、二つの集落のあいだで起こった水争いに関する記録が見られます。明治時代には、村の共有地を保証する地券や、今池の増築工事などの史料を目にします。大正時代になると、近義街道（千石橋から常照寺の前をとおり鳥ノ池の北側にいたる道）の改修や、極楽橋（現在の千石橋）のかけかえなどの道路整備に関するものが多くのこされています。また、昭和10年代には、災害防止を目的として集原池の改修工事が行われていたことがわかります。その他には、終戦直後の状況がわかる資料が数多く見られ、復興を遂げていくようすを垣間見ることができます。



古文書の入った木箱やタンス

これらの資料により江戸時代から第二次世界大戦後に至る250年以上の名越集落の歴史が明らかとなりました。その内容からは、まるで当時のひとびとの息づかいがいきいきと伝わってくるようです。

『貝塚市の指定文化財 - 平成9～13年度指定 - 』刊行

平成9～13年度に指定した市の文化財18件の写真と解説を掲載した冊子ができました。文化財トピックでとりあげた『平成13年度貝塚市指定文化財』で紹介した文化財も載せています。

お求めは社会教育課または郷土資料展示室まで。一部200円



編集後記

暑かった今年の夏も終わり、秋が深まりつつあります。秋は博物館、美術館の特別展、歴史や文化のシンポジウム、講演会が多く行なわれます。気候の良い時期、いろんな催し物に足を伸ばしてみませんか。



かいつか文化財だよりテンプス13号



平成 14 年 9 月 30 日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目 17- 1
☎ (0724) 23 2151
印刷 (株)中島弘文堂印刷所

テンプスとはラテン語で「時」を意味します